

C-Pro ヴェルディ「レクイエム」用 対訳

1. Introitus e Kyrie ☆入祭唱☆ ~ ☆憐みの讃歌☆

死者の永遠の安息への祈り。

Requiem aeternam dona eis, Domine, 主よ、彼らに永遠の安息を与えてください

安息 永遠の 与える 彼らに 主

et lux perpetua luceat eis. そして絶えることのない光が彼らを照らしますように

そして 光 絶えない 照らす 彼らを

Te decet hymnus, Deus, in Sion, 神よ、あなたはシオンにおいて賛美されるものです

あなた 似合う 讃歌 主 シオンの

et tibi reddetur votum in Jerusalem. そしてエルサレムであなたに誓いが捧げられるでしょう

そして あなたに 捧げる 誓い エルサレムで

Exaudi orationem meam どうか私の祈りを聞き入れてください

聞く 祈り 私の

ad te omnis caro veniet. すべての人の肉体が、主のもとへと戻ることが出来ますように

～に あなた 全ての 肉体 行く

三位一体を象徴して、神とキリストと聖霊に憐れみを乞う。ギリシャ正教の祈りから転用された文章のため、ここだけはラテン語ではなく、ギリシャ語が使用されている。

Kyrie eleison. Christe eleison. Kyrie eleison. 主よ、憐れんでください。キリストよ、私たちを顧みてください

主 憐れみを キリスト 憐れみを

2. Dies irae (Sequentia ☆続唱☆)

13世紀になってから作詞された文章で当初修道士たちが個人的なミサを行うために用いられたため、祈りの対象が「彼ら」ではなく「私」となっているのが特徴。

レクイエムの歌詞に取り入れる際、全体の整合性を持たせるため終曲（Lacrimosa）の最後で「彼ら（死者一般）」に向けての祈りの言葉が加えられた。

Dies irae（怒りの日）

世界が滅ぶ時、死者が一斉に呼ばれ裁かれる日（最後の審判）が来ることを指す。

Dies irae, dies illa, solvet saeculum in favilla その日は怒りの日。この世は破壊され灰となるでしょう

日 怒り 日 その 解き放つ この世 灰に

teste David cum Sibylla. ダヴィデとシビラが証言したように

証言 ダヴィデ と シビラ

Quantus tremor est futurus, 人々の恐れはどれほどのものになるのだろうか！

どれほど 震える である 未来

quando iudex est venturus, 裁く者がやがて現れる時

の時 裁く者 である 来るであろう

cuncta stricte discussurus. 審判の日に、すべてのことが厳しく裁かれる時に

全てを 厳しく 裁く

Tuba mirum（奇しきラッパの音）

罪を犯さない人間はいない、つまりすべての人間が裁かれる。すべての人間の行い・罪は「生命の書」に記され、だれも言い逃れることは出来ないことを述べる言葉。

Tuba mirum spargens sonum 奇なるラッパの響きが

ラッパ 奇異な 響き渡る 音

per sepulchra regionum 各地の墓から

沿って 墓 世界中の

coget omnes ante thronum. **すべての者を玉座の前に集めるでしょう**
集める 全ての の前に 玉座

Mors stupebit et natura **創造物である人間が**
cum resurget creatura **裁く者に弁明するために復活するその時**
judicanti responsura. **死も、そして自然も驚くでしょう**
Liber scriptus proferetur **書物がさしだされるでしょう**
in quo totum continetur **すべてのことが書き記され**
unde mundus iudicetur. **この世のすべてを裁くための書物が**
Judex ergo cum sedebit **審判者がその座に着く時**
quidquid latet, apparebit. **隠されていたことのすべては明らかにされ**
Nil inultum remanebit. **罰せられずに残る者は一人もないのです**
Quid sum miser tunc dicturus? **その時哀れな私は何を言えば良いのでしょうか？**
Quem patronum rogaturus? **誰に弁護を頼めば良いのでしょうか？**
Cum vix justus sit securus. **正しい行いをしてきた者ですら安心出来ない、その時に**

Rex tremendae (偉大なる大王)

Rex tremendae majestatis, **恐るべき偉大なる大王**
大王 恐るべき 偉大な

qui salvandos salvas gratis. **救われるべき人を、恵みをもって救ってくださるお方よ**
の人 救われるべき 救う 恵みをもって

Salva me, fons pietatis. **慈悲の泉のお方よ、私をお救いください**
救う 私を 泉 慈悲

Recordare (思い出されよ)

この章は、神ではなくキリストに向けての祈り。キリストがわざわざ地に下り、一度は人間の罪が赦されるよう（せつかく）あれほどの苦しみを受けてくださったのだから、最後の審判でも自分たちの罪が赦されるようにと、懸命に祈る人間の性を表している、もっとも人間的な内容と言える。

Recordare Jesu pie, **思い出してください、慈悲深きイエスよ**
quod sum causa tuae viae, **あなたが地に下ったのは私たちのためであるということ**
ne me perdas illa die. **審判の日に、私を滅ぼしませんように！**
Quaerens me, sedisti lassus. **私を探してあなたは疲れ、座り込まれました**
Redemisti crucem passus. **十字架に苦しみ、私の罪を贖って下さった**
Tantus labor non sit cassus. **これほどのあなたの辛苦が無駄になりませんように！**
Juste iudex ultionis, **裁きをもたらす正しき審判者よ！**
donum fac remissionis **最後の審判の日の前に**
ante diem rationis. **赦しの恩寵をお与えください**
Ingemisco, tamquam reus **私は罪人のように嘆き**
culpa rubet vultus meus. **罪で顔を赤らめます**
Supplicanti parce Deus. **神よ、許しを請う者に慈悲をお与えください**
Qui Mariam absolvisti, **マグダラのマリアを許し**
et latronem exaudisti, **盗賊(マタイ)の願いをもお聞き入れになったあなたは**
mihi quoque spem dedisti **私にも希望を与えられました**
Preces meae non sunt dignae. **私の祈りなど価値のないものですが**
Sed tu bonus fac benigne **寛大に取り計らってください**
Ne perenni cremer igne. **私が永遠の炎に焼かれないように、**
Inter oves locum praesta, **私を羊の群れに置き**
et ab haedis me sequestra, **山羊たちを遠ざけてください**
statuens in parte dextra **私をあなたの右側においてください**

Confutatis (呪われし者)

他の人間が裁きを受けても、自分のことだけは救ってもらえるように祈る言葉となっている。

Confutatis maledictis **呪われた者、口を封じられた者たちに**
flammis acerbis addictis, **激しい火による判決が下された後**
voca me cum benedictis **祝福された者と共に、私をお呼び下さい**
Oro supplex et acclinis **私はひざまづき、平伏して希います**
cor contritum quasi cinis **私の心は灰のように砕かれています**
gere curam mei finis **私の終いの時にお守り下さい**

Lacrimosa (涙の日)

罪人として裁きを受けたとしても蘇ることが出来るように、と祈る言葉。

Lacrimosa dies illa, その日は涙あふれる日

涙が溢れるような 日 その

qua resurget ex favilla, 燃える灰の中からよみがえるだろう

の時 蘇る から 燃える灰

Judicandus homo reus. 裁きを受けるべき罪人は

裁きを受けるべき 人 罪人

Huic ergo parce Deus. その者をお許してください、神よ

その人 なので 許す 神

Pie Jesu, dona eis requiem 慈悲深き主イエスよ、彼らに安息を与えてください

慈悲深き イエス 与える 彼らに 安息を

3. Offertorio ☆奉献唱☆

キリストへの感謝を示し、パンと葡萄酒を聖壇に捧げるための言葉。

Domine Jesu (主、イエスよ)

Domine, Jesu Christ, Rex gloriae, 主、イエス・キリストよ、栄光の王よ！

libera animas omnium fidelium defunctorum 全ての死せる信者の心を救いたまえ

de poenis inferni et de profundo lacu. 地獄の罰と底知れぬ深淵から

Libera eas de ore leonis, 彼らをライオンの口から救いたまえ

ne absorbeat eas tartarus, 深淵が彼らを飲み込んでしまいませぬように

ne cadant in obscurum. 彼らが闇の底に落ちてしまいませぬように

Sed signifer sanctus Michael そうではなく、旗手聖天使ミカエルが

repraesentet eas in lucem sanctam. 聖なる光の道に導いてくださいますように

Quam olim Abrahae promisisti et semini ejus. かつて、あなたがアブラハムとその子孫に約束されたように

Hostias (いけにえ)

Hostias et preces, tibi, Domine, laudis, offerimus, 主よ、いけにえと祈りをあなたに捧げます

tu suscipe pro animabus illis. 彼らの魂を受け入れてください

Quarum hodie memoriam facimus. 私たちが今日思いを馳せた人たちの

Fac eas, Domine, de morte transire ad vitam. 死を生へと転じさせてください

Quam olim Abrahae promisisti et semini ejus かつて、あなたがアブラハムとその子孫に約束されたように

4. Sanctus ☆聖なるかな☆

Sanctus (聖なるかな)

ヨハネの黙示録に残る、天使セラフィムが発したとされる言葉。三位一体の象徴として必ず3回唱えている。

Sanctus, Sanctus, Sanctus. 聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな！

Dominus Deus Sabaoth. 万軍の主である神よ

主 神 万軍

Pleni sunt coeli et terra gloria tua. あなたの栄光で天と地は満ち溢れます

満ちる である 天 と 地 栄光 あなたの

Hosanna in excelsis. いと高きところにホザンナ(万歳・栄光あれ)！

Benedictus (ほむべきかな)

キリストがエルサレムに入る時に群衆が歓迎として発した言葉。ホザンナはヘブライ語。

Benedictus qui venit in nomine Domini. 主の御名によって来る方(キリスト)に祝福がありますように

祝福される 人が 来る により 名前 主

Hosanna in excelsis. いと高きところにホザンナ(万歳・栄光あれ)！

5. Agnus Dei ☆平和の讃歌☆

神の子羊とはキリストのこと（洗礼者ヨハネがキリストを指して言った言葉にちなむ）

通常のミサでは「私たちに平安を（Dona nobis pacem）」と謳われる言葉は、レクイエムでは「彼らに安息を」と変更されている。

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi. 世の罪を除いて下さる神の子羊よ
子羊 神の する人 取り除く 罪 世界

Dona eis requiem sempiternam. 彼らに永遠の安息を与えて下さい

6. Lux aeterna (Communio ☆聖体拝領唱☆)

ミサにおいて、信者がパンを拝領する時に歌われる言葉である。

Lux aeterna luceat eis, Domine. 彼らに永遠の光を与えてください、神よ

Cum sanctis tuis in aeternum quia pius es. あなたの聖人とともに永遠に、あなたの慈悲により

Requiem aeternam dona eis, Domine, 主よ、彼らに永遠の安息を与えてください

et lux perpetua luceat eis. そして絶えることのない光が彼らの上を照らしますように

7. Libera me, Domine (Absolutio ☆赦祷唱☆)

ミサの終了後に歌われる。今一度、最後の審判の恐怖を思い起こし、自分と死者の平安を祈る。

Libera me, Domine, de morte aeterna, 永遠の死から私をお救い下さい、主よ

解放する 私を 主 から 死 永遠の

in die illa tremenda. その恐ろしい日に

に 日 その 震えるような

Quando caeli movendi sunt et terra, 天も大地も揺らぎ

の時 天 揺れる である と 地

Dum veneris judicare saeculum per ignem. 神が炎をもってこの世を裁こうとするその日

の時 来る 裁く この世 により 炎

Tremens factus sum ego et timeo, 私は震え、そして恐れます

震える ~になった 私 と 恐れる

dum discussio venerit atque ventura ira. 裁きと、その後に来る怒り時を

の時 判決 来る さらに 起こる 怒り

Dies illa, dies irae その日は怒りの日

Calamitatis et miseriae, 災禍に打ちひしがれ

災い と 不幸

dies magna et amara valde. 大いなる嘆きが訪れる

日 大いなる と 苦しい と とも

Requiem aeternam dona eis, Domine, 主よ、彼らに永遠の安息を与えてください

et lux perpetua luceat eis. そして絶えることのない光が彼らの上を照らしますよう